

経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

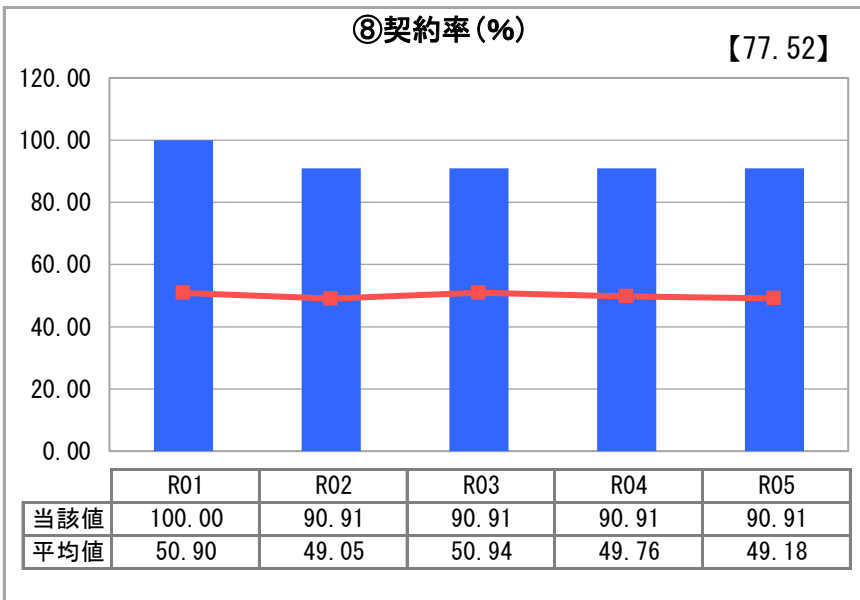
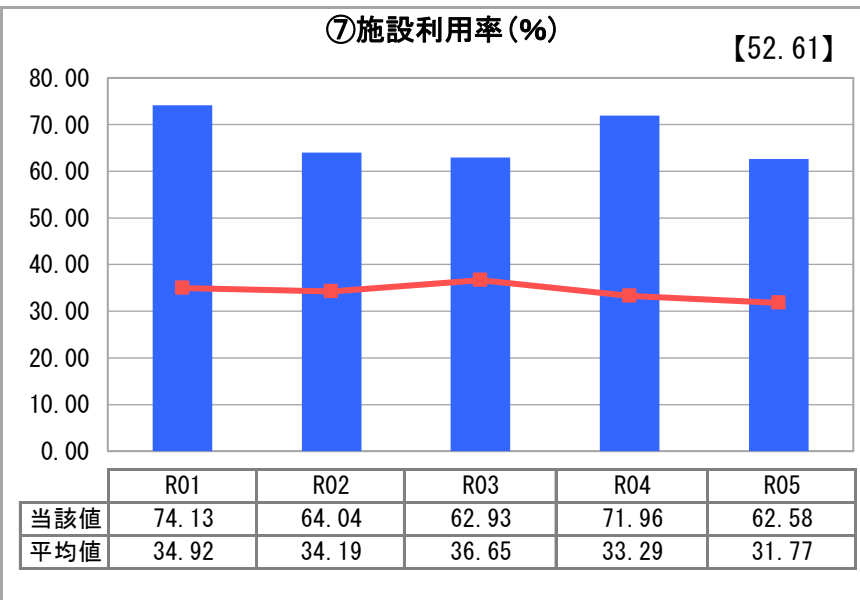
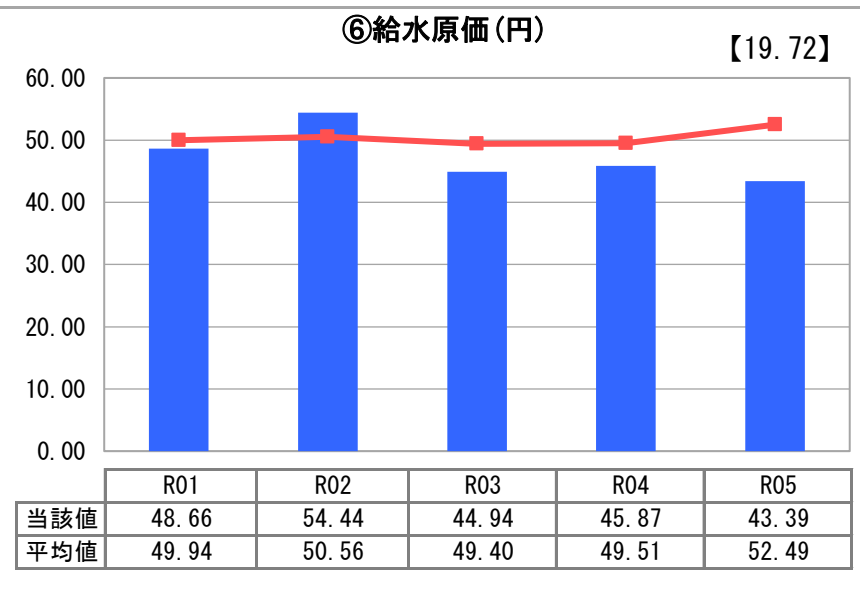
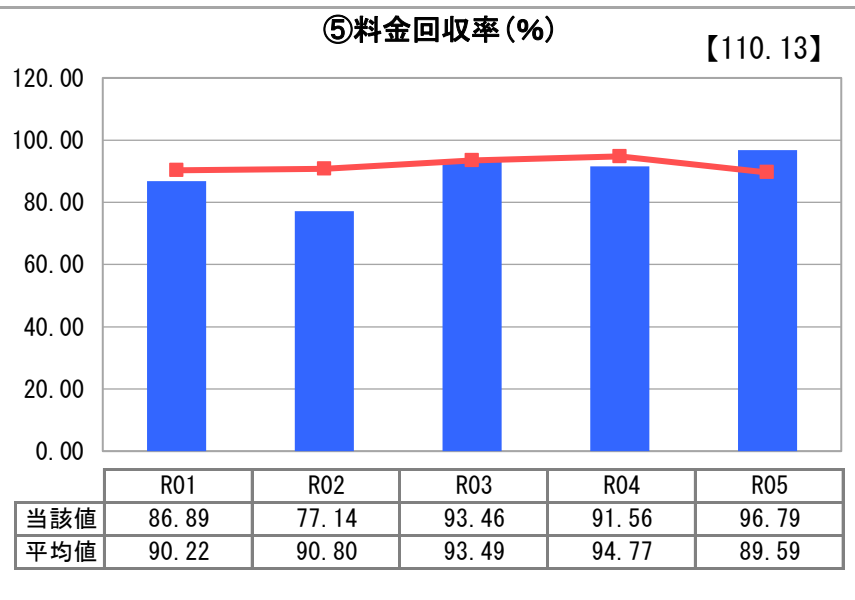
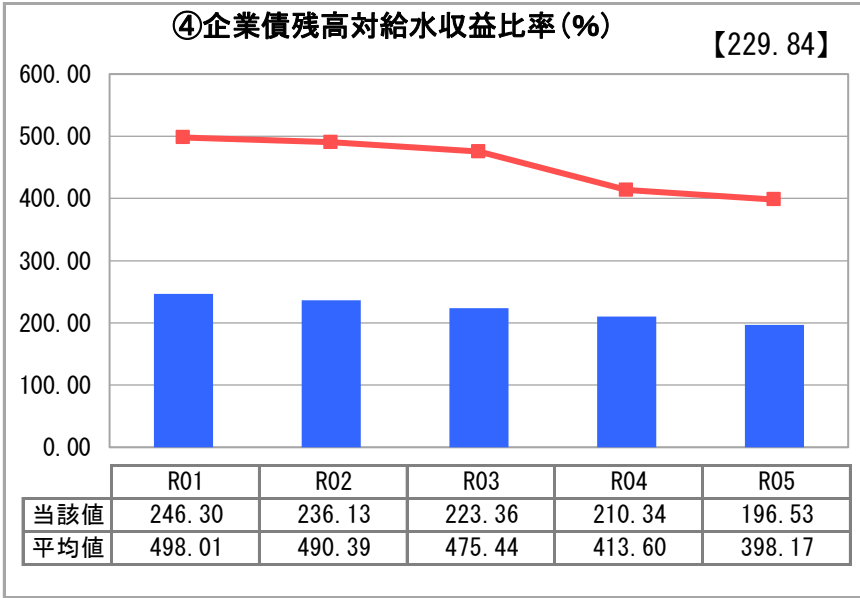
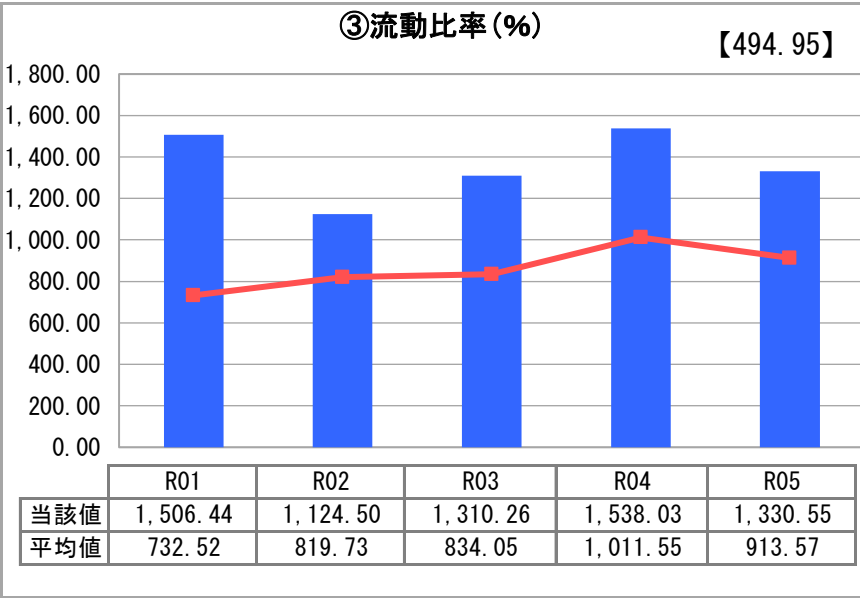
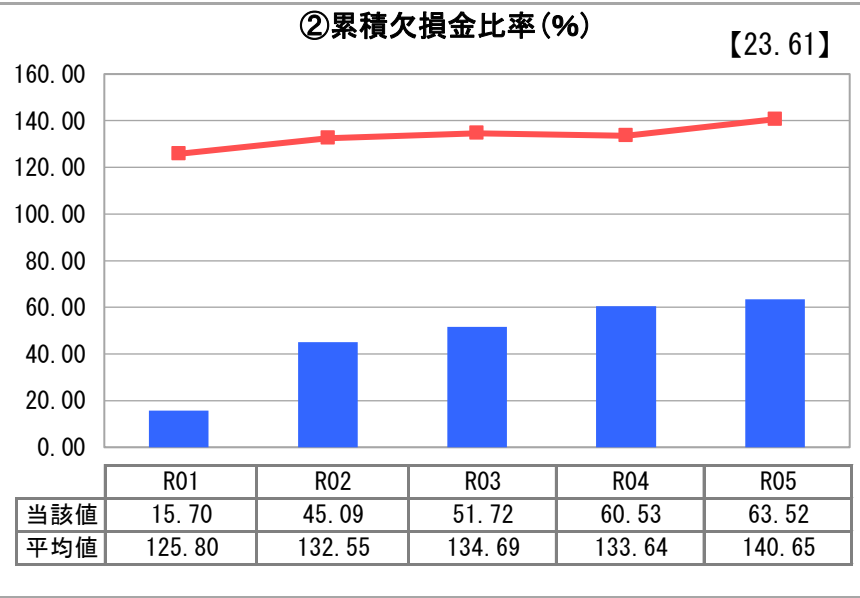
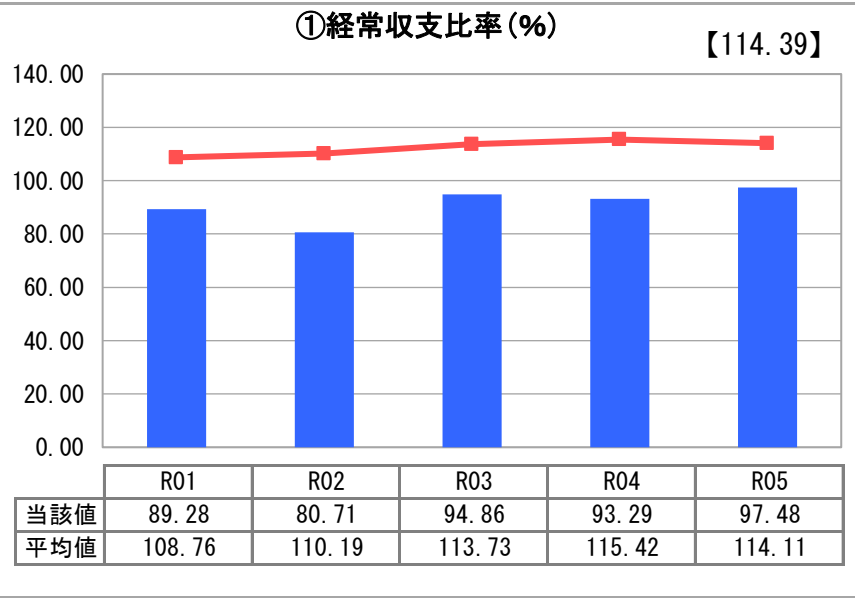
長崎県 西海市

【事業概要】

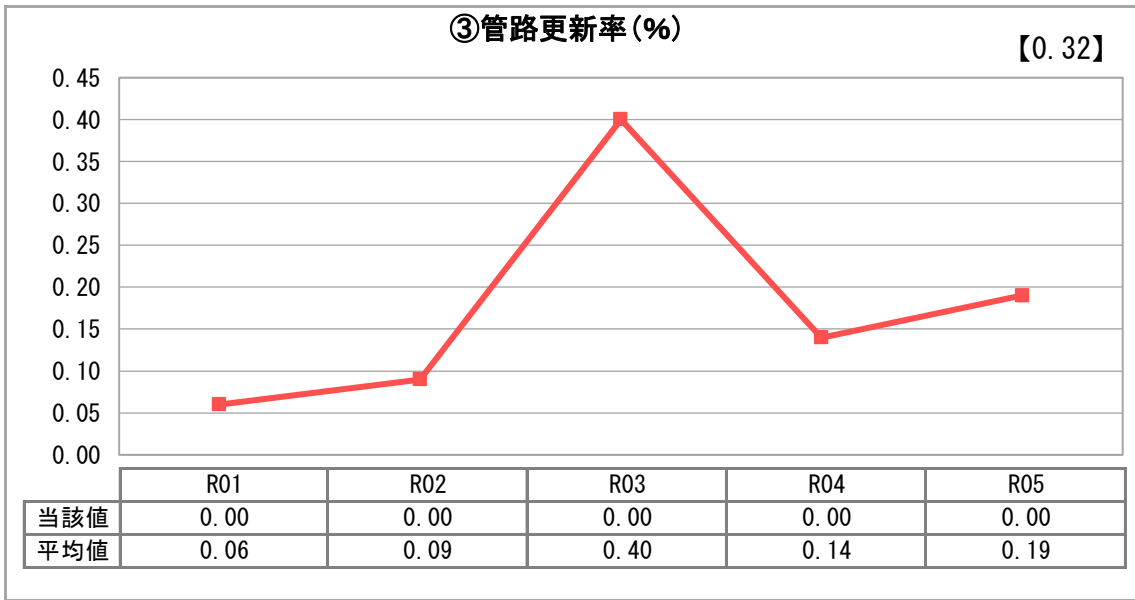
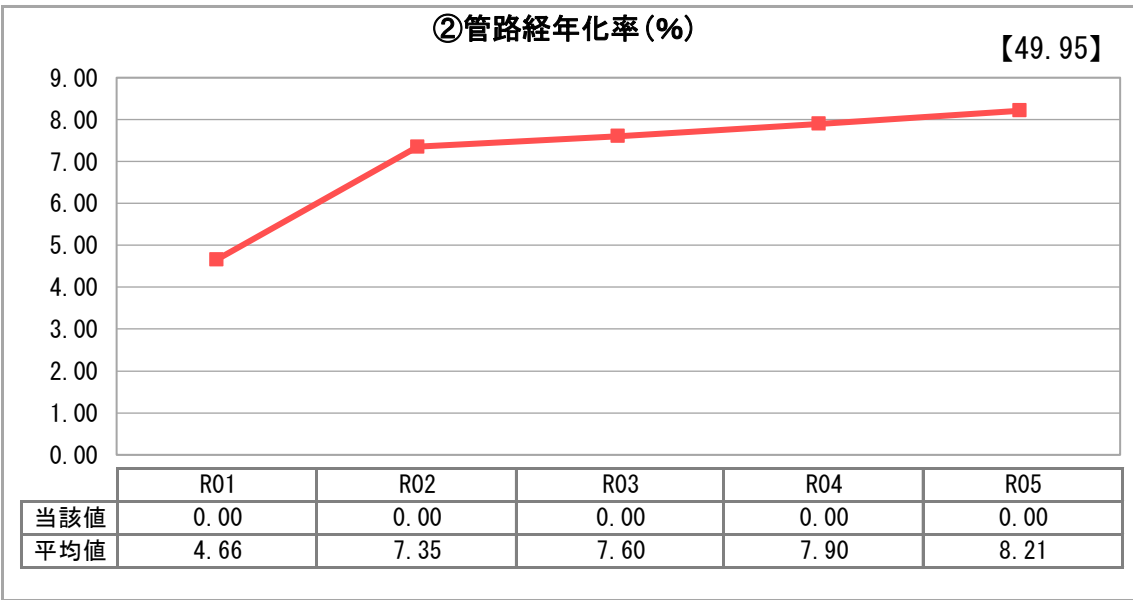
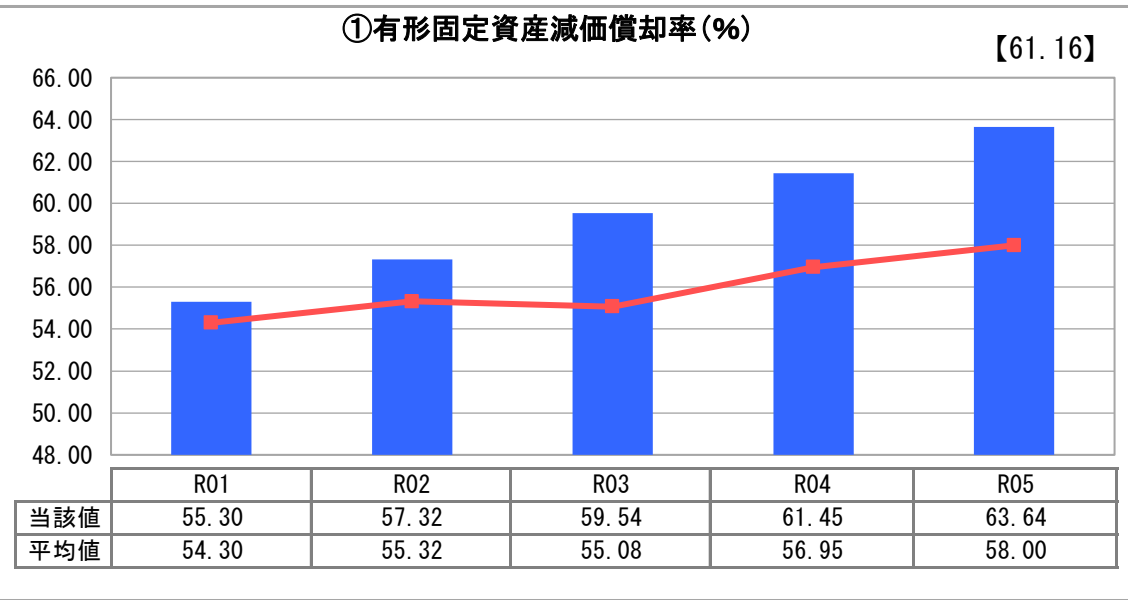
業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	5,500	極小規模	1	3,442
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	83.3	1	5,000	非設置	

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率：100%を下回っているが、令和3年度以降、営業費用の減により経営状況が改善している。

②累積欠損金比率：昨年度より微増している。

③流動比率：類似団体に比べ非常に高く、短期の支払い能力には問題ない。物価高騰等による経常費用の増加が懸念されるため、注視する。

④企業債残高対給水収益比率：新規の借入れがないため、減少傾向で推移している。今後の固定資産の老朽化等による施設更新等に備え、適正な管理を行う必要がある。

⑤料金回収率：100%を下回っているものの、令和3年度以降は、90%以上で安定して推移している。今後の財政状況により、料金改定等の検討が必要となってくる。

⑥給水原価：近年上昇傾向にあったが、令和3年度以降は費用の減により改善し、類似団体よりも低く抑えられている。

⑦施設利用率：高い水準で推移している。今後も施設の効率化を念頭に整備を行うとともに、動向に注視する。

⑧契約率：高い水準を維持している。今後も適正な施設維持を行っていく。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率：類似団体平均値をやや上回っている。本市の契約企業は1社のため、今後の施設・設備・管路の更新においては、給水先企業の活動方針を見極めながら必要な投資を行い、安定供給に努める。

②管路経年化率：グラフには反映されていないが、管路の大部分が昭和53年度に布設されているため、令和2年度以降は98.23%と急激に高くなっている。
・令和元年度 4.16%
・令和2年度～5年度 98.23%

③管路更新率：給水先企業の活動方針が具体的に決定後、更新時期等を検討する。

全体総括

施設建設後40年以上を経過しており、サービスの安定供給のため、経営戦略に基づき今後も計画的な更新が必要である。